

佳作

うれしいうたより

神奈川県 湘南白百合学園小学校三年 小林 蘭

お父さんが、学校から帰ってきた私に一通の手紙をわたしてくれました。私はその手紙をうけると、急いで自分の部屋にもどって、なきながら手紙を読みました。

今年三月の終業式のことです。校長先生がりモートのあいさつでたいしょくする先生を発表しました。そこで私が一年生の時のたんじんの先生がたいしょくする事が分かりました。とつぜんの発表でびっくりして、私は思わず泣いてしまいました。さい後に先生にあいさつができると思いましたが、新型コロナウイルス感せんしょうのため、その日は会えませんでした。

私は自宅に帰ると、お母さんになきながら、「先生がやめちゃった。」とつたえると、お母さんもおどろいていました。

たいしょくされた先生は小学校ではじめてのたんじんの先生でした。じゅ業がわかりやすくて楽しかったので私は大好きでした。一番の思い出は私と友だちがトラブルになった時にかいけつしてくれたことです。学校を休んでいた私に先生は、

「心ばいしなくていいよ。次にこまったことがあったらすぐに言ってね。」

と言ってくれました。これで私はとても安心しました。それで学校にも楽しく通えるようになりました。先生がやめてしまったことをお母さんに相談するとお母さんは、

「もう先生は学校に来ないかもしれないけど、学校あてにお手紙を書いてみたら。」

と言ってくれました。そこで、私は春休みに先生に手紙とイラストを書くことにしました。

手紙を出してから一ヶ月くらいたった時にお父さんが手紙をわたしてくれました。それは先生からのお手紙でした。返事は、もう来ないかもしれないとあきらめていたので、とてもうれしかったです。

先生からの手紙には、「おたよりがとてもうれしかったです。先生の手元に手紙がどいたのは五月一日。すぐお返事を書かなくてはと思いました。か

いて下さった絵がとても上手です。イラストを見て、心がなごみ、いやされました。どうぞ笑顔で楽しく学校生活を送ってください」と書いてありました。

手紙には住所も書いてあったので、これから手紙のやりとりができることがうれしいです。暑中見まゐを出そうと思っています。